

震災による余波

川根茶産地の今

●県内の生葉と飲用茶の放射能調査

(5月上旬～中旬) 単位: Bq/kg

地区名	生葉		飲用茶		採取日
	セシウム	ヨウ素	セシウム	ヨウ素	
伊豆市	98	検出されず	8.9	検出されず	5月12日
伊豆市	(379)	(2.3)	14	検出されず	5月9日(生葉) 5月15日(飲用茶)
小山町	120	検出されず	12	検出されず	5月13日
御殿場市	101	検出されず	5.9	検出されず	5月13日
沼津市	44	検出されず	4.6	検出されず	5月12日
富士宮市	105	検出されず	5.7	検出されず	5月13日
富士市	84	検出されず	3.9	検出されず	5月12日
静岡市葵区	117	検出されず	5.7	検出されず	5月12日
静岡市清水区	139	検出されず	11	検出されず	5月12日
藤枝市	96	検出されず	6.1	検出されず	5月13日
川根本町	62	検出されず	4.3	検出されず	5月13日
牧之原市	★90	★0.9	6.9	検出されず	5月6日(生葉) 5月12日(飲用茶)
御前崎市	★83	★2	3	検出されず	5月2日
御前崎市	★75	★0.6	—	—	5月10日(生葉)
菊川市	111	検出されず	4.3	検出されず	5月7日
掛川市	40	検出されず	4	検出されず	5月13日
袋井市	22	検出されず	1.6	検出されず	5月15日
磐田市	(46)	(0.4)	1.9	検出されず	5月9日(生葉) 5月2日(飲用茶)
森町	73	検出されず	3.4	検出されず	5月15日
浜松市天竜区	95	検出されず	5.5	検出されず	5月13日

※ 暫定規制値および準用値…生葉: 500Bq/kg、飲用茶: 200Bq/kg

※ 生葉は製茶など加工する前の、茶の木から刈り取った状態の茶葉

※ 飲用茶は製茶した茶葉10gを430mlの90℃の湯で、60秒間浸出したもの

※ 分析装置の精度から分析値の有効桁数は2桁

(ゲルマニウム半導体検出器によるγ線核種分析、2000秒)

※ ★は毎年、静岡県環境放射線監視センター(御前崎市)が実施している

浜岡原子力発電所周辺等の環境放射線調査結果(県危機管理部原子力安全対策課)

※ ()は、文部科学省が県に委託して実施している環境放射線水準調査結果

(県危機管理部原子力安全対策課)

※ 上記の調査にかかる分析は、静岡県環境放射線監視センターで実施

※ Bq(ベクレル)は、放射能の強さを表す単位。

1ベクレルは1秒間に1個の原子核が崩壊して放射線を出す放射能の強さ

6月上旬、上岸地区の坂本園では、4月から5月にかけて受注した新茶の梱包作業のため一家総出で対応していた。みな、その表情は明るい。一見、いつもと同じ新茶シーズンにも見える。しかし息子さんが「放射性物質の自主検査の結果が出るまで、ろくに寝ることができません」と話すように、放射能汚染の不安がこの川根地域にも広がっていることを実感させられた。



東日本大震災によって原子力事故が発生した福島第一原子力発電所流出する放射能の影響により、東北・関東近県では海産物、農作物などの「出荷停止とその解除」が繰り返されている静岡県では5月上旬から中旬にかけ、生葉と飲用茶の放射能調査を実施18カ所全ての地点で安全が確認されたしかし、それだけでは終わらなかった…川根茶、そして静岡茶が置かれている現状を追う

Zoom up

安全と安心を届けたい

—川根茶を風評被害から守るため—

各地で広がる放射能への不安

かつて誰も経験したことがないような大災害が東日本一帯を襲った3月11日午後2時46分—。

マグニチュード9.0という巨大地震、推定10とも15メートルといわれる巨大津波の襲来によって、東日本一帯の沿岸部では、家屋工場、港湾、農地などに壊滅的な被害をもたらした。

この災害で東京電力福島第一原子力発電所(福島第一原発)では、放射性物質が流出するという重大な原子力事故が発生した核燃料が溶け落ちてしまう炉心溶融(メルトダウン)。原子炉建屋の頭部を吹き飛ばした水素爆発。テレビに映し出される衝撃的な映像に、誰もが目を覆い、耳を疑った。福島第一原発事故後の3月17日、同県産の原乳から1510ベクレル/リットル、茨城県産のホウレンソウから最大15020ベクレル/結の放射性ヨウ素が検出された。その後、東北、関東近県では、海産物や農作物などから食品衛生法上の暫定規制値を超える放射性物質が次々と検出され、出荷制限や自粛、そしてその解除が繰り返された。実害ばかりではない。作物の出荷制限のニュースが報道されるたび、その作物を買

い控える動きも現れ始めた。いわゆる「風評被害」である。

「作っても売れない…。放射能という目に見えない恐怖は、次第に漁業や農業を営む者たちの気力を奪っていった。

県外産の一部の茶からも…

5月、衝撃が走る。神奈川県南足利市で生産される「足柄茶の一部」から、暫定規制値を超える放射性物質が検出されたのだ。「とうとうお茶にまで…」。

茶業関係者、各関係機関が危機感を募らせる中、政府は茨城県全域、神奈川県の一部、千葉県の一部、栃木県の一部で摘採された「生茶葉」について、出荷の停止を要請した。

日本一の茶生産量を誇る静岡県にとって、他人ごとでは済まされない。静岡県では5月上旬から中旬にかけ、県内18地点で「生葉と飲用茶の放射能調査」を緊急的に実施。結果、放射性物質は全ての地点で暫定規制値を下回っており、安全であると確認。茶業関係者らは一様に胸をなでおろした。

川勝平太県知事は5月18日、県庁で開かれた静岡茶の新茶PRイベントに参加。「静岡のお茶は安全です。がぶ飲みしたいくらい」と、報道陣に向け、静岡茶の安全を宣言した。

…その矢先の出来事だった…。